

仙台フランクフル文庫主催

第4回

# ロゴセラピー講演会

テーマ

日本人から見たアウシュヴィッツ

参加費  
1,000円  
当日受付にて  
お支払いください。

日時

2016. 9月4日(日) 18:30~20:00

会場

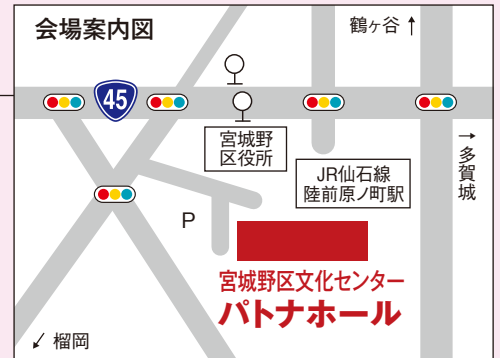
宮城野区文化センター パトナホール

〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2丁目12-70

◆ 駐車場が狭いので、できるだけ公共交通機関をお使いください。

◎ J R / JR仙台駅から仙石線で6分、陸前原ノ町駅下車

◎ バス / (仙台市営バス) 仙台駅前18・50・51番のりば  
(宮城交通バス) 仙台駅前・50番のりば → いずれも宮城野区役所前下車



講師

中谷 剛 Takeshi Nakatani

●プロフィール

神戸市出身。1991年に医療器具メーカーの営業の仕事  
を辞め、ポーランドに移住。1997年に外国人として初めて  
アウシュヴィッツ博物館の公認ガイド資格を取得した。  
以来、日本人訪問者にアウシュヴィッツの歴史を伝え続けている。  
著書に『新訂増補版 アウシュヴィッツ博物館案内』など。  
博物館案内の依頼は、中谷さんの  
個人サイトから可能。

- 主催 / 仙台フランクフル文庫
- 協力 / 特定非営利活動法人  
ほっぷの森

お問い合わせ

仙台フランクフル文庫 (ほっぷの森内) ☎090-3123-6363 (白木)

お申し込み

下記にご記入の上、FAXにてお申し込みください。 FAX.022-797-8802

お名前

ご連絡先

E-mailアドレス

※この申込用紙による個人情報、当講演会のご連絡にのみ使用させていただきます。

仙台 فرانクル文庫は  
右記の場所にあります。

特定非営利活動法人 ほっぷの森内 (〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル4階)

月～金 11:00～17:00

●ご見学希望の際は、下記電話 または メールアドレスまでお問い合わせください。

電話 090-3123-6363 メールアドレス fshiroki@gmail.com



1946年「死と愛」(原書)初版(原題「医師による魂の癒やし」)

## 「それでも人生にイエスという」

ロゴセラピーは、「夜と霧」の著者、V.E.フランクルによって創始された、「意味(ロゴス)」を中心として進められる心理療法です。ロゴセラピーでは、どのように生きることが意味のあることなのか、今いる状況での課題は何なのか、人生に意味を見出せないで悩んでいる人たちと一緒に、意味のある生き方を探し、癒しの可能性を求めます。「いかなる状況にあっても人生には意味がある、人生にイエスと言うことができる」と考えます。



## 仙台フランクル文庫とその背景

ナチスドイツ強制収容所の体験記「夜と霧」や「それでも人生にイエスと言う」などの著書で知られるオーストリアの精神科医ヴィクトール・フランクル(1905～1997)が、第2次大戦後、家族を亡くした絶望のなかで書いた本の初版が、ウィーンのフランクルセンターから「震災後の日本」へ贈られた。

1946年に出版された「医師による魂の癒やし」で、日本語訳は『死と愛』(霜山徳爾訳、みすず書房)として1957年に出ている。ユダヤ教徒だったフランクルは、新婚の妻や両親と強制収容所に送られた。書きかけの論文原稿も没収され、四つ目の収容所で米軍に解放された。しかし再会を夢見て帰ったウィーンで、母はガス室で殺され妻は収容所で解放後まもなく死んだことを知る。

悲嘆のなか、失われた原稿を書き上げたのが、この本だ。収容所で、フランクルは小さな紙に本の構想をメモすることで生き抜いた。どんな時にも生きる意味はある、それは追い求めるものではなく、刻々と問われることに応えることの中にある、と説いたフランクルが、生きる意味や苦悩の意味、愛の意味について書いた、戦後の出発点。亡き妻へ捧げられている。

フランクルが提唱したロゴセラピーを継ぐ1人で、ドイツに住む勝田茅生さんに2011年夏、この初版本が託された。フランクルセンターの理事たちからの手紙がついていた。

(かつてオーストリアも非常につらい時期がありました。この作品は当時の大災害のなかから生まれ、世界中の人たちに多くの善いことをもたらしたのです。被災された方や日本の人たちに「それでも」の力が与えられるよう願っています)

勝田さんが仙台や東京でロゴセラピー入門セミナーを始めて10年。仙台のロゴゼミ受講生たちが、勝田さんから、この初版本を受け取った。障害者の就労支援をする特定非営利活動法人「ほっぷの森」の白木福次郎理事長らが、本を修復し、2012年5月に「仙台フランクル文庫」を設けて、展示を始めた。

フランクルは、この「医師による魂の癒やし」に、晩年まで手を入れた。加筆された最終版は、「人間とは何か」(山田邦男監訳、春秋社)という題で2011年に翻訳出版されている。

(2012年6月9日朝日新聞夕刊の記事に補足 編集委員・河原理子)



仙台フランクル文庫(ほっぷの森内)

## 仙台フランクル文庫主催 ロゴセラピー講演会

仙台フランクル文庫では、これまでに3回、講師の先生をお招きして講演会を開催いたしました。

第1回  
講演

2014年  
9月20日開催



講師 草野 智洋

- ・臨床心理士
- ・日本ロゴセラピスト協会認定 A級ロゴセラピスト
- ・静岡福祉大学社会福祉学部 専任講師
- ・静岡県ひきこもり支援センター スーパーヴァイザー

テーマ

### 生きる意味を見つけるために

ロゴセラピーとは「他者を変化させるための技術」よりも「自分自身の生き方」に関わるものです。ロゴセラピーの世界観や人間観を自分のものにし、自分自身の人生を意味あるものにしていくとするセラピストの態度が、クライアントの力になります。

第2回  
講演

2015年  
6月13日開催



講師 山田 圭輔

- ・麻酔科専門医
- ・ペインクリニック専門医
- ・ロゴセラピスト
- ・金沢大学医薬保健学域医学系 麻酔・蘇生学講座准教授
- ・金沢大学附属病院に「がん哲学外来」を開設

テーマ

### ロゴセラピーを基盤とした がん哲学外来

がん研究がどれだけ進んでも、人には最後に死ぬという大きな仕事が残る。がん医療には科学だけでなく、哲学的な考えを取り入れる必要がある。がん哲学外来とは、がん患者の心の苦痛(スピリチュアルペイン)を軽減することを目的とする。死に向き合わずして、究極の心の安定は成立しない。

第3回  
講演

2016年  
2月20日開催



講師 渡辺 祥子

- ・フリーアナウンサー
- ・朗読家
- ・日本ロゴセラピスト協会認定 ロゴセラピスト
- ・2014年8月にTOブックスより「3.11からのことづて ～災害後を生きる人たちの言葉～」を出版

テーマ

### フランクルの言葉 ～「3.11からのことづて」によせて～

東日本大震災の被災の地で懸命に生きる人々の姿は、まさに、「それでも人生にイエスと言う」姿です。この方々の生き方や、災後この地で繰り広げられた、世界中の人々との心の交流の中に、私はロゴセラピーの精神を見ました。これは、未来を生きる人々の教科書になる!!と確信し、こうして語り続けています。